



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN  
**佐土原ロータリークラブ週報**



**意識を喚起し  
 進んで行動を**

2000～2001年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリー財団月間

第669回 平成12年11月29日(水)

〔本日のプログラム〕

- |            |                      |
|------------|----------------------|
| 1. 点       | 鐘                    |
| 2. ローターソング |                      |
|            | 「奉仕の理想」              |
| 3. 食       | 事                    |
| 4. 会長の時    | 間                    |
| 5. 幹事報     | 告                    |
| 6. 委員会報    | 告                    |
| 7. ゲスト卓    | 話                    |
|            | 国際交流協会<br>事務局長 黒木直英氏 |
| 8. 点       | 鐘                    |

次回予告

★12月6日(水)

12月セレモニー  
 会員卓話

福井輝文君

理事・役員会

★12月13日(水)

夜間例会  
 年次総会

(全員出席)

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日(12:30~13:30)	会長	梶田與之助
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	吉田康一郎
事務局	宮崎県佐土原町大字下郷阿3887-17	幹事	宮原 建樹
	☎880-0212	会計	後藤 明夫
	TEL及びFAX 0985-73-7170	総務委員	池田 仁志

## 第 6 6 8 回例会記録

(2000. 11. 22)

### ☆会長の時間

会長 梶田 與之助 君

皆様、今日は

本日は第668回の例会です。

先週の職場訪問、皆さん大変お疲れさまでした。県工業技術センターの先端技術の試験工場を見学しましたが、意義のある1日だったと思っております。また、この職場訪問をお世話頂きました、垂水職業奉仕委員長に感謝申し上げます。

先々週の2日間(11月11日(土)~12日(日))GSEを当佐土原RCが担当したわけですが、11日(土)の朝、サンホテルに私宮原幹事、濱田RI財団委員長、事務局の桜井さんの娘さんの4人でフィンランドからの5名のGSEの方を迎えました。11日はリーダーを含めて青井岳への散策に出掛けることになり、案内役兼通訳を桜井さんの娘さんにして頂きました。12日(日)は、彼等自身でシーガイア等でゆっくり休暇を楽しまれたようです。13日(月)は私共3人で、サンホテルから高鍋の「ホテル泉屋」まで無事に送り届けることができ、一安心した次第です。

さて、本日も宮崎経済新聞掲載の記事を見て、私自身反省させられましたので、抜粋して紹介したいと思います。

【宮崎には英雄がない。日本中に知られるヒーローがない。小村寿太郎も立派な偉人であるが、『それ、誰』と聞き返される可能性が高い。これは宮崎にとって残念なことである。

鹿児島には西郷隆盛がいる。今も人心を集め『敬天愛人』の額を掛けている家庭も少なくない。西郷どんがヒーローになったのは、もちろん本人自身の努力や功績もあるが、実は鹿児島県人が作り上げたものと見る。つまり西郷隆盛に対して『あんたはすごい人じゃ』と県民が素直に賞賛できたということである。ヒーローは常にこうやって生まれる。

振り返って宮崎の場合、ヒーローが誕生する土壤がない。もしかすると過去に西郷隆盛と同等か、またはそれ以上の英傑が存在したかもしれない。しかし宮崎の県民は偉業を黙殺したり、けなしたりする傾向が強い。決して褒めない。かわいそうに、出る杭は徹底的に打たれるのである。

シーガイアの佐藤棟良氏にしても、松方知事にしても、悪く言われる。『あんなもん造って、何になっとか』『もう年じゃかい、ダメよ』というネガティブな意見を発するのが好きなようで、間違っても『大した人物じゃ』という評価は受けない。しまいには『宮崎は人材がおらんがね』と嘆くのがから恐れ入る。人材はいるのだが、それを認めない土地柄が英雄の出現を殺しているのだ。

郷土出身の有名人も、応援するどころか馬鹿にしたりする。『やっぱりロッチの黒木はだめじゃね。いい気になり過ぎたわ』といった具合。かといって、宮崎が嫌いなわけではないらしい。『こんげな住みやすいところが他にあるか』などと言っている。なんだか、みんな自分が一番偉いと思っているようで、まことに不思議な県である。】

宮崎北RCより、2000年度高鍋・西都

佐土原・宮崎北・ロータリークラブ

西都原合同観桜例会の初回の打合せが当石崎浜荘にて、12月2日(土)14:00~より開催の予定です。

親睦委員長と会長(又は幹事)の出席の依頼が来ております。

例会終了後、理事・役員会を行いますので、よろしく願います。

---

## ☆幹事報告

幹事 宮原 建樹 君

1. 例会変更等のお知らせはありません。
2. 中部分区会長・幹事会が12月1日(金)18:30~より、宮崎市の「花月亭」にて開催されます。  
梶田会長と私が出席致します。
3. 地区大会がいよいよ今週末(25日~26日)になりました。もう一度時間等ご確認の上、出席の方はご参集下さい。

出席者名

濱田君. 加藤君. 垂水君. 藤堂君.  
正岡君. 後藤君. 林(厚)君. 福井君  
岩下君. 太田君. 田村君. 梶田会長.  
宮原

以上13名の方です。

---

## ☆出席報告

委員長代理 田村勝二君

---

会 員 数	28名
例 会 出 席 者	18名
出 席 率	64%
メークアップ者数	3名
修正出席率	75%
欠 席 者 名	藤. 林(卓). 神宮. 詩. 帳

---

## ☆米山奨学生

推薦について

副会長 吉田康一郎君

事務局より、先日、2000年度、米山奨学生に、李君が推薦されていない、との連絡を受け、李君に報告しなければ!ちょっと億劫だな...とっておりましたが、本日の例会で推薦合格者のリストを見せてもらい、李君に見せました所、「これは前の分です」とのことでした。取り合えずホッとしました。

米山奨学生選考委員の方をご存じの方がおられたら、どうぞ根回し方、よろしくお願い致したいと思います。

何とか当クラブより推薦の李君に朗報がもたらされる様、皆様をお願いいたします。

宮崎県退職公務員連盟の最近の会報に、佐土原町郷土史研究の第一人者と言われる青山幹雄先生の島津豊久公に関連したご寄稿が掲載されていました。

慶長5年(1600年)に関ヶ原の戦で戦死した豊久公の遺跡を通じて、豊久公の没後400年を経過した現在、佐土原町と上石津町(岐阜県)及び吹上町(鹿児島県)の三町の間で交流が始まっているとの心温まる内容でした。

本日は、その概要をお伝えしたいと思います。豊久公の佐土原領主時代の資料は殆ど佐土原には残されていないとのことですので、佐土原町史と池宮彰一郎氏著「島津奔る」も参考にさせていただきました。



島津豊久は、初代(前)佐土原領主である島津家久の子で、家久が急病死(豊臣秀吉の弟の大和大納言秀長の意に逆らい毒殺されたとの噂もある)した後、第2代佐土原領主を相続した。時に18歳であった。

文禄元年(1592年)と慶長2年(1597年)の2回、豊久は伯父の義弘に従って朝鮮の役に出役した。義弘は家久の兄で、稀代の名将と謳われた人物である。

若くして父を亡くした甥の豊久に我が子のように愛情を注ぎ、豊久もまた心から義弘を尊敬し慕ったのであった。

朝鮮の役で義弘に実戦でも薫陶を受けた豊久は、秀吉から2回も感状を授与される働きをしたと伝えられている。

しかし、二人のこの堅い結び付きが、関ヶ原での永遠の訣別になろうとは!

慶長5年9月15日午後2時頃、関ヶ原の合戦は東軍の勝利で終わった。それまで自陣から一步も動かなかった義弘は、残った600名ほどの島津勢を率いて最後の敵本陣突入を決意した。その時、義弘に、薩摩の国と領民のため是非生還するよう諫めたのが豊久であった。

5万人を超える東軍残存将兵の中を突破して奔る島津勢に対し東軍の追撃は執拗で、烏頭坂に到達した時の島津勢将兵数は200名を割った。豊久は死を覚悟し、義弘の陣羽織を着て騎馬武者13騎を率いて追撃軍に突入し奮戦した。

衆寡敵せず、重傷を負った豊久は生き残った佐土原兵数名によって現在の上石津町上多良まで運ばれたが、力尽き自刃した。享年31歳であった。

その後、豊久の亡骸は名主三輪内助入道一齊によって瑠璃光寺を菩提寺とし、その墓地に埋葬されている。「島津塚」と称され、大切に今も祀られているそうである。4年前に青山先生ら同志が上石津町を訪問して以上の史実が判り、爾來同町と佐土原町の交流が始まった。

また、鹿児島市西隣の吹上町から、佐土原領主島津豊久公に従軍して関ヶ原で戦死した兵士の子孫という方が来訪されたので、佐土原中学校南側天昌寺跡に在る関ヶ原戦死者の個人墓に案内されたところ、その1基に彫られている名前は私の祖先ですと400年ぶりの対面に感激され、吹上町の方々との交流が深まった。

今年の9月3日に吹上町で『豊久公顕彰碑』の除幕式(吹上町主催)が行われ、上石津町から町長他70余名、佐土原町から代表11名が参列し盛大な合同式典が挙行された。豊久公の史跡は、三町民の心の中で共通して生きているのです。